

統計家の行動基準を考える

－ プロの統計家は誰の何のために働くのか －

大分大学 和泉志津恵, 京都大学医学部付属病院 佐藤恵子

1. はじめに

国内における統計家の行動基準は、ワーキンググループにより 2012 年 5 月から作成が始まり、2013 年に日本計量生物学会にて採択されている (佐藤ら, 2014)。この版では、統計学が応用される医学、農学、経済学、心理学などの各領域に共通する土台にあたるものとして、米国統計学会 (American Statistical Association, ASA) や国際統計協会 (International Statistical Institute, ISI) のものに準拠した形で作成されている。その構成は、I: 前文, II: 統計家の使命と守るべき価値, III: 行動基準となり、策定の目的や背景も記述されている。2014 年には、臨床研究と疫学研究に関するこれまでの倫理指針が統合され「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」になり、医学領域においても倫理規定が注目されている。さらに、統計教育大学間連携ネットワーク (JINSE) が提案するカリキュラムに統計倫理を含む可能性が出ている。

一方、ASA は 1949 年に統計の実務のために倫理的な指針を出し、その Web サイトに 1999 年から現在の版「Ethical Guidelines for Statistical Practice」を掲載している (Hurwitz and Gardenier, 2012)。そして、ISI は 1985 年に「Declaration on Professional Ethics for Statisticians」を文書化し 2010 年に改訂版を承認している。さらに、王立統計学会 (Royal Statistical Society, RSS) は 1993 年に「Code of Conduct」を文書化し 2014 年に改訂している。

2. 概要

本ワークショップでは、先の講義 1 およびワーク 1 に続き、講義 2 として、統計家の行動基準の概要、策定の背景や方法を解説する。そして、行動基準は各人が自らのプリンシプルを持つための基盤となる考え方を示したものであることを説明する。さらに、ワーク 2 では、プロの統計家は誰の何のために働くのかについて考え、マンダラ・チャートを作成する。ここでは、2013 年 10 月に佐藤恵子氏が提案した教育プログラムを、ワークショップ用に一部改良した教材を用いる (佐藤ら, 2015)。

Selected References

- American Statistical Association (1999). Ethical Guidelines for Statistical Practice.
<http://www.med.nyu.edu/sites/default/files/ctsi2/ASAEthicalGuidelinesforStatisticalPractice.pdf>
- International Statistical Institute (2010). Declaration on Professional Ethics.
<http://www.isi-web.org/membership/296-declarationprofessionalethics-2010uk>
- 日本計量生物学会 (2013). 統計家の行動基準.
http://www.biometrics.gr.jp/news/all/standard_20150310.pdf
- Royal Statistical Society (2014). Code of Conduct.
<http://www.rss.org.uk/Images/PDF/join-us/RSS-A5-Code-of-Conduct-2014.pdf>
- 文部科学省, 厚生労働省 (2014). 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針.
http://www.lifescience.mext.go.jp/files/pdf/n1443_01.pdf
- 佐藤恵子, 岩崎学, 菅波秀規, 佐藤俊哉, 椿広計. (2014). 統計家の行動基準の策定－背景と今後の課題. 計量生物学 35(1):37-53.
- 佐藤恵子, 鈴木美香, 和泉志津恵. (2015). 統計家のプロフェッショナルイズム涵養プログラム-施行と評価. 日本計量生物学会 2015 年度大会予稿集, pp. 63-68

連絡先: 和泉 志津恵 (Email: shizue@oita-u.ac.jp)